

イッティージャパン(株)子ども英会話講師。H17年度より小学校英語スクールアシスタント(以下SA)として小学校3・4年生との授業に5年間携わる。その後、社内で講師育成事業を任せ一旦はSAを離れるが、H29年度より再開、現在市内の小学校2校を担当している。

J-SHINE 通信

2017年9月号



酒井順子さん

■ J-SHINE資格、上級指導者資格取得のきっかけ

J-SHINE 資格は、以前勤めていた英会話学校で講師をしていたときに取得しました。上級指導者資格取得は、H21年6月、J-SHINE フォローアップ講座内で、判定試験を受けて認定されました。

SAの仕事は、市の広報誌で知りました。子ども英会話講師の経験を生かして、地域に貢献したいという思いから、採用試験(※小論文・英語面接・日本語面接・実技試験)を受け、採用されました。SAは有償ボランティアとなります(※小論文は現在行われていません。)

■ 現在の活動状況

私が勤める市では、市が作成したカリキュラムに沿って小学校3年生から中学校3年生まで、年間35時間の「英会話」の授業を展開しています。英語が専門ではない小学校の先生方への支援として、小学校3・4年生には地域の日本人であるSAが年間20時間、小学校5・6年生には外国人英語指導員(ALT)が年間30時間配置されています。

人的配置のなされているこれらの時間は、チームティーチングで行われることになっています。担任の先生が主導し、SAやALTが音声面等のサポートをする授業を目指していますが、うまくいかない場合は、SAが授業をリードし、タイトルコールや英語でのデモンストレーション、褒め言葉を伝えるなどお互いの役割を明確にして授業に臨んでいます。子どもの個性やクラスの特徴を知っている担任の先生だからこそ「出場(でば)」、英語の音声や文化に慣れているSAだからこそ「出場」が、お互いにかかっていることが、子どもがいきいきと活動する姿や、担任の先生が英語を積極的に使う授業に結びついているといえます。

チームティーチングでは、打ち合わせが大切です。私が担当する2校は、お忙しい中でも先生方が打ち合わせの時間をとってくださっています。前回の活動のふりかえりカードのコメントや子どもたちの様子をもとに、どのような活動を行うのが望ましいか、担任とSAそれぞれの役割や準備物について話し合います。その際、次回の内容について話し合い、急なことが起こっても対応できるよう前もっての準備を心がけています。SAやALTの中には、自分一人で授業を進めた方が手間がなくてよいと思っている方もいま

す。しかし、私はSAと担任の役割を生かしてこそよい授業ができると考え、意見交換ができる打ち合わせの時間を大切に考えています。

私たちSAは、5・6年生でALTが担当する「英会話」の授業にスムーズにつなげていく役割も担っています。英語への入り口である3・4年生で、英語嫌いにならない配慮をしています。英語を習っている子だけが活躍することのないように、小学校だからこそ、またいろいろな個性の子どもがいる学級集団だからこそできる活動を仕組むようにし、育てたい子どもの姿を常に考えています。

小学校で、子どもが書いた『英会話』の授業への感想文集を読み「友だちとのきよりがぐ〜んとちぢまった」「来年は外国人の先生だからちょっと不安だけど、がんばってみたいです」など、子どもが人と人とのふれ合いが好きになったり来年度への期待を持ったりすることがわかるコメントにふれるとき、SAとしてのやりがいを感じます。

■ 今後の展望、課題、目標

100年に一度の教育改革といわれる時代のまっただ中、学習指導要領も変わります。私は、小学校英語関連や特別支援教育関連の研修に出向いて時代の流れを追うとともに、子どもたちによりよい学びを提供できるように勉強しています。でも、私一人が関わられる子どもの数には限界があります。だから、指導者を育成することでそのバックにいる何百、何千、何万の子どもたちの力になることができるでしょう。そんな思いから、私は現在J-SHINEトレーナー資格取得に向けて勉強中です。

また、私が担当する小学校の一つは、本年度より、「英語で学ぶモデル事業」の研究校として、小学3年生以上で体育、図工等の授業にもALTが入って英語で展開するという取り組みを行っています。この研究も奥が深いので、子どもたちのため学校のために勉強をしていきたいと思います。

J-SHINE資格を取得された皆さんには、その力を是非現場である小学校で生かしていただきたいと思います。経験は自信につながります。英語の指導者としての悩みが出てきたときには、J-SHINEの先輩方が全国にたくさんいらっしゃいますし、小学校の先生方からも学ぶことだらけです。一緒に小学校英語に携わって、未来に羽ばたく子どもたちの力になりませんか。